

Essay 22

あいまい表現を使いこなしてネイティブに近づこう

Vague language

前項の終わりで、私はあいまいな言葉遣いがみなさんの英語をさらに自然に聞こえるようにするのに役立つと述べました。

これには二つの主な理由があります。一つは、あいまいな言葉遣いをするのは、私たちの日常的な言葉のやり取りの中で非常に自然なことだからです。たとえば、日常的に使う日本語で、こんな言い方をすることがよくあるでしょう。

～のようなもの、何となく、だいたい、～っぽい、～的な

しかし、学校教育におけるような「正式な」言語学習においては、このあいまいな言葉遣いの多くが見過ごされる、あるいは無視される傾向があります。したがって、学生たちは“The car is red.”という表現を習うかもしれませんが、

The car is **kind of** red.

その車は赤っぽい。

あるいは、

The colour was **somewhere between** green and blue.

その色は緑と青の間のような感じだった。

といった表現を習う機会はあまりないのです。

一般的に言って、あいまいな言葉遣いを身につけた学習者は、

自然な状況（たとえば、海外で生活するなど）でそうだったか、あるいは、特別な努力をしてそれを身につけているのです。

二つ目に、外国語の学習者はその言語を完ぺきに知っているわけではありませんから、その人が話す内容は100%正確、あるいは妥当なものでも当たり前です。

ある日本語とびつたりマッチする英語の単語を探すのではなく、自分の意図を伝えるためにあいまいな言葉遣いを用いることができます。次に、いくつか日本語をあげ、その大まかな意味を伝えるためにあいまいな言葉遣いを用いる例をあげましょう。

- 螺旋階段 They are steps that are **sort of** like a corkscrew.
それはちょっとコルク栓抜きみたいな階段だ。
- ナメクジ It's maybe a **kind of** snail, but has no shell.
たぶんカタツムリみたいなものだが殻がない。
- 藤色 It's **pretty much** the same as purple, **or perhaps** violet.
深紫色にけっこう似ているけど、すみれ色かも。
- わさび It's **more or less** the same as horseradish.
“horseradish” (セイヨウワサビ) みたいなものかな。

以下に、簡単なものから、やや上級に属するものまで、さまざまなあいまいな言葉遣いを用いた文を集めてみました。みなさんも、是非文中の一部を変えて言ってみるなどして、英語のこういった言葉遣いに慣れていただければと思います。

また、他の日本語の単語や表現を思い出して、それらをあいまいな言葉遣いを用いて英語で説明できるかどうか確かめてみてはいかがでしょうか。